

新年のごあいさつ

吹田市議会議長
坂口 妙子



明けましておめでとうございます。
市民のみなさまにおかれましては、心健やかに新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。
さて、新型コロナウイルス感染症は、感染の拡大と収縮を交互に繰り返しながら、すでに3年近くもの間、私たちの暮らしに多大な影響を与え続けています。加えて、昨今の原油価格や物価の高騰が、企業の経営や国民の家計にさらなる負担を生じさせており、依然として先行きが不透明な状況です。
しかしながら、私たちがウィズコロナの下での歩みを止めないためには、この3年間で得た知見を十分に生かしながら、命を守る取り組みと社会経済活動の回復に向けた取り組みとを、しっかり両立させていく必要があると感じております。
市議会では、この間、社会状況の変化を機敏に捉え、必要な支援が必要な方の元に迅速に届くよう、力を傾注してまいりました。今後も、市民のみなさまの生活の安定に向けた継続的な支援策をさらに推進するため、活発な議論を重ね、慎重かつ的確な判断をしておりますので、引き続きましてのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本年が市民のみなさまにとりまして、ご健勝にて幸多き一年となりますよう心から祈念申し上げます、年頭にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

吹田市長
後藤 圭二



明けましておめでとうございます。
みなさまが、健やかに新年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。
昨年は、いまだ収束のめどが立たない新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻など、市民生活や地域経済に大きな影響をもたらし、市としてもワクチン接種をはじめとした感染症対策、物価高騰緊急対策など、みなさまの生活をお支える取り組みを懸命に進めてまいりました。
また、喫緊の課題のみならず、都市機能の計画的な整備や維持管理、まちの魅力を高める取り組みも着実に進めてまいりました。昨年11月には、公民館、図書館、児童センターを融合した「まちなかりビング北千里」をオープンしました。能勢の木材をふんだんに使い、人と人との交流が自然に生まれるリビングルームのようなあたたかな空間で、豊かな時間をお楽しみください。
先の見通せない不安定な状況、とこれまで何度申し上げたことでしょうか。どのような状況にあっても、行政には、今の、そして将来の市民にとって真に必要なことを捉え、その優先順位を見定めつつ、一つ一つ着実に施策を展開していく責任があります。
これからも、常に先を見据え、だれもが安心して、健やかで快適に暮らし続けられるまちづくりを進めてまいります。
みなさまにとって本年が幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。